

豆類経営改善共励会

11月2日(水)、大分県農業協同組合中央会主催の第37回大分県豆類経営改善共励会の表彰式が、大分県教育会館で行われました。

生産技術や品質の向上を目指し、先進的な取り組みを行う団体や個人を表彰するもので、個人の部の最優秀賞を河野洋一さん(安岐町向陽台)、奨励賞を栗田捷洋さん(国東町北江)が受賞しました。

河野さんは、大規模水田農業と施設園芸を複合経営しており、県内でもトップクラスの経営規模・技術を有し、県平均を大きく上回る高い収量を確保しての受賞となりました。



11月7日(月)、河野さん(写真左)が、三河明史市長に受賞を報告しました。

集落みんなで農業を守る 農事組合法人「志和利」「原」設立

高齢化や後継者不足による耕作放棄の防止や、機械化による効率的な農業に取り組むなど、地域農業の担い手となることを目的に、2つの農事組合法人が発足しました。

11月12日(土)、武蔵町志和利地区の農家44戸で構成する農事組合法人「志和利(森信代表理事)」が発足しました。翌13日(日)、国東町原地区の農家36戸で構成する農事組合法人「原(松本一成代表理事)」が発足しました。



「志和利」地域に根ざした永続的な生産体制を確立していきます



「原」効率的な農業を継続し、次世代に引き継げる組織を目指します

犬活躍！ シカ囲いワナ

大分県の鳥獣被害対策モデル集落計画で重点地区(戦う集落)に選定されている国見町赤根地区では、県のシカ誘導捕獲モデル事業を活用して「シカ囲いワナ」を設置しています。

ワナは、高さ約3メートル、周囲の延長約50メートルの大型のもので、東部地域鳥獣被害現地対策本部(県東部振興局、市、猟友会等で構成)関係者と地元集落の皆さんで協力して9月末に2日間かけて設置したもので、設置後1カ月間はワナの仕掛けを作動させずに餌付けを行い、11月6日から捕獲を開始したところ、2日目にシカ1頭、4日目にはシカ2頭、5日目にはイノシシ7頭が捕獲できました。地元関係者の皆さんは、苦勞して設置したワナが効果を発揮して集落の被害減少につながっていくよう今後も期待しているとのことでした。



熊毛小学校6年生が「炭焼き」体験

11月17日(木)、国見町岐部の岐部林研グループ炭窯で、熊毛小学校6年生10人が、炭焼き体験学習を行いました。岐部林業研究グループ(安部秀寿会長)の指導で、児童が力を合わせて原木を窯に運び込みました。そして、窯の燃料用の竹を、のこぎりを使って小さく切る作業や、窯の入り口をレンガでふさぐ作業の手伝いをした後、児童みんなで窯に火をつけ、勢いよく炎が上がると歓声が森林に響き渡りました。炭が焼きあがった後、今度は「炭出し」体験を行います。

